そのためかどうかは解らないが、翌昭和 5 年には浜口雄幸内閣の逓信大臣小泉又次郎氏（元総理小泉純一郎氏の祖父）がわざわざ当局を訪問し米村局長をはじめとして職員一同を激励している。

結局　長波を予備として短波専門の無線局になったのだが、意外なところで長波が利用できることが発見された。それは長波は水中でも浸透する特性が昭和 14 年に発見され、潜水艦との交信の実験を重ねた結果、超長波 17.442kHz がサイパン・トラック沖合で約 15m 程度潜航していても通信可能なことが実験で証明され、かつハワイ沖でも 15m 潜航でも可能、つまり海面上に艦影を露わさなくとも交信可能だということが実証された。

隠密行動を旨とする潜水艦が潜航中でも交信できるとは画期的な発見で、早速海軍はこれに飛びつき、昭和 16 年 2 月以降、長波の設備は海軍専用に徴用され、太平洋に散開している潜航中の潜水艦と交信が出来るようになった。

従ってあの有名な「ニイタカヤマノボレ 1208」の開戦指令は、水上艦艇には船橋海軍送信所から、散開配備中の対潜水艦にはこの依佐美局から発信された。

潜航中の潜水艦と交信が可能で、かつ実戦で交信したのは世界で初めてのことだ。

戦後は全ての施設が米軍に接収され軍用の無線局として活用され（1955 ～ 1993)、横須賀の米海軍司令部と太平洋に散開する米潜水艦との交信はすべて依佐美局で送受信を行っていた。

◎　依佐美局が米軍の接収が解除され　　、
返還されてから 8 基のアンテナ塔は解体され、建物も解体されてしまったが、送信機棟は保存されていたため、新に依佐美送信所記念館を建設して機材を展示、一般公開されており、場所は愛知県刈谷市、JR 刈谷駅南口からタクシーで約 7 分のフローラルガーデン‘よさみ’内にあり、バスは刈谷市公共施設連絡バスがあるが駅前で確かめた方が良い。私は以前に東海道新幹線の車窓からアンテナを見ていたのでおおよその方向を定め歩いたが、既に解体してあり途中迷ってしまった。歩くなら JR 野田新町駅からの方が近い。　見学は無料、内部には機械遺産の指定を受けている高周波発電機、主誘導電動機、トリプラー(周波数 3 逓倍)、高周波チョークコイル、バリオメーター高周波コイル、ローディングコイル等が展示されており、その大きさは鉄道線路を新に敷設して港から直接鉄路で運んだのが頷ける程巨大で、現存する誘導子型発電機としては世界唯一でしょう。　　現代の同じ出力の送信機と比較すると大型トレラーと乗用車位の大きさと重量に相違があり科学の推移が良く判る。また展示場にはボランティアの方々が交代で常駐し、丁寧に説明して戴いた。内部に軽食のレストランがあったから見学者は多数いるのでしょう。　　依佐美局は誘導子型発電方式の送信機であったのに対して、原ノ町局はアレキサンダーソン型発電機であり実物は写真でしか見たことはないが、原理は同じなので見ためも同じ様なものだと推察した。　　（依佐美送信所記念館）